

【令和4年度 卒業証書授与式 式辞】

本日ここに、大阪府立登美丘高等学校 第71回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、保護者の皆様にはお忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。ここにめでたく、お子様が栄えある卒業をお迎えになりましたこと、心よりお祝い申し上げます。この栄誉は、保護者の皆様がお子様を励まし、温かく育てこられた賜物であり、ご覧のとおり、お子様は大変頼もしい若者に成長しました。この間に寄せられました本校へのご支援に対しまして、また、このたび卒業記念品として「ワイヤレスアンプマイクセット」を寄贈していただき、重ねてお礼申し上げます。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

また、本日、3年ぶりにお越しただけました。ご来賓の皆様には、公私何かとご多用のところ、晴れのこの良き日にご臨席を賜りました事、また平素より、本校教育活動へのご支援はもとより、地域の未来を担う子供たちの健全育成にご尽力いただいておりますこと、本当にありがとうございます。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与しました309名の卒業生のみなさん、改めて卒業おめでとうございます。今日は、最初に説明いたしましたように、生徒の皆さんは、「もちろん強制するものではありませんが」、歌を歌う時以外は、マスクを外すのを基本としています。これは皆さん、画期的なことですよ。

思い起こせば3年前の2月29日、3年前はうるう年でしたので、つまり今日、当時の安倍首相が、全国一斉の学校休業を宣言いたしました。みなさんは、中学校の卒業式、そして、登美丘高校の入学試験の時からコロナの制限を受け、入学式は6月15日でした。昨日卒業アルバムが手渡され、見ましたが、3年前の入学式は、生徒の皆さんだけで、この体育館いっぱい広がっての入学式でした。以来3年間、厳しいコロナの制限を受けてきて、昼食も黙食。何度も何度も学校休業や学級閉鎖を経験。そしてマスクは必須、担任の先生でも、マスクを外した皆さんの顔を、ほとんど見たことがないという3年間でした。3年目の本日、やっとです。やっとマスクを外すことを基本とする、という通知が来ました。高校3年間の最後の一日だけ、1000日のうちの一日だけですが、ようやくそんな日がきました。コロナは5月には5類になるという事ですので、また世の中が少し変わるのではないのでしょうか。

しかし、厳しい制限の3年間でしたが、皆さんは明るく、楽しく、できることをしっかり行い、いい思い出を作ってくれました。しんどい時に、逆に皆さんの笑顔に勇気づけられました。ありがとうございます。

そんな皆さんに送る言葉をひとつ。2学期末の終業式でも言いましたが、やはり送りたい言葉は「リバウンド・メンタリティ」です。カタール・ワールドカップで「ブラボー」って叫んだ長友選手が、そのインタビューの時に言っていた言葉です。「コスタリカ戦で敗れて厳しい3日間を過ごしたんですけど、それでもみんなその壁を乗り越えて、リバウンド・メンタリティを発揮して、強い気持ちでスペイン戦に望めた結果です」との話でした。そのリバウンド・メンタリティという言葉は、今年の11月14日

に登美丘で話してくれた元 Jリーグチェアマンの村井満さんが、3 年前に Jリーガー向けの研修で話された言葉でした。打たれ強さに通じるその言葉。大事な言葉だと思います。そしてリバウンド・メンタリティを得るのはどうしたらいいか、村井さんは、傾聴力・人の話をしっかりと聞くこと、そして自己努力、聞いたことで修正して努力する事、そして自らをアピールする主張力、これを繰り返していくと、リバウンドメンタリティが身につく、という事でした。卒業生の皆さんはこれから広い世界に羽ばたいていかれますが、必ず、これはもう必ずです。必ず思い通りにいかないことや、とんでもなく辛い事は起こります。望みませんが、いつか、どこかで起こります。そんな時に今日の事を思い出して、リバウンド・メンタリティを発揮して、どうぞ乗り越えてください。祈っています。

最後に皆さん、登美丘高校は今年 100 周年を迎えます。11 月 11 日にフェニーチェで行うその 100 周年記念式典も、良かったらお越しください。みなでお祝い出来たら最高です。その時に、「強いから優しい」皆さんと笑顔で会えることを楽しみに卒業式の式辞といたします。

どうぞお幸せに。3 年間 ありがとう。

令和5年3月1日

大阪府立登美丘高等学校

校長 山本哲哉